



三内丸山遺跡 保存決定 30 周年



足跡たどる記念展やシンポ

特別史跡、そして世界遺産の三内丸山遺跡は 2024 年 8 月、保存決定から 30 周年を迎えました。決定当時の写真などを展示した記念展が 2025 年 3 月 2 日 (日) まで、三内丸山遺跡センターのギャラリーで開かれています。縄文文化そのものに対する社会の意識を変えてきた足跡をたどることができます。

「JOMON の日」にぎわう

遺跡一帯で土器や土偶が出土することは、古くから知られていました。青森西高校の清野耕司教諭によると、江戸時代後期に活躍した文人・菅江真澄は、当時の三内村の桜を見物した際、掘り出された「縄形、布形の古き瓦」を見たとき記述している、これは縄文土器の破片だったと考えられています。地元では「土器が拾える山」として、子どもたちに人気がありました。

1970 年代、青森県総合運動公園の整備に伴って、三内丸山遺跡を含む地区が調査され、大型の建物跡や多くの遺物が見つかりました。

さらに 1990 年代、総合運動公園を整備・拡大することになり、新しい県営野球場を建設するため、1992 年に三内丸山遺跡の本格的な調査が始まりました。この時点では調査終了時、遺跡の上に野球場が建つ予定でした。

しかし、直径 1m 以上のクリの木柱を伴う大型掘立柱建物をはじめ、貴重な数々の遺構や大量の遺物が出

たことが 1994 年 7 月に報じられ、全国的に大きな反響を呼びました。そして翌 8 月に遺跡を保存することが決まりました。

1997 年 3 月には史跡に、2000 年には特別史跡に指定され、2022 年 7 月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産として世界遺産に登録されました。出土品は 2003 年 5 月に 1,958 点が、2024 年 8 月に 1,855 点が重要文化財に指定されています。

青森西高校生がボランティア

9 月 14 日～16 日の 3 日間、三内丸山遺跡で秋の恒例イベント「さんまる JOMON の日」が開催されました。遺跡保存決定の 30 周年記念シンポジウムが開かれたほか、発掘調査現地説明会、発掘を疑似体験する「発掘ひろば」、縄文時代の狩猟の雰囲気を味わえる「縄文ハンター」などのコーナーが開設され、多くの親子連れや県

内外、海外からの見学者でにぎわいました。

青森県立青森西高校の生徒たちが、今年もボランティアに駆けつけました。

「縄文ハンター」コーナーを担当した 3 年の菅原青葉さんは「今年初めて三内丸山遺跡でボランティアを体験しました。受付やクイズコーナーも担当しましたが、車いすやベビーカーの方、さらに外国の方への対応もあり、とても学ぶところが多いイベントになりました」と話していました。

同じく、2 年の佐藤光一君は「三内丸山遺跡では 4 月と 7 月に続けてのイベント参加になりました。外の活動が多く、日差しが強く大変ですが、頑張ってます」と声を弾ませ、子どもたちをサポートしていました。



青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑥

駅からハイキング 野木和公園を周遊

青森県立青森西高等学校「青西おもてなし隊」の生徒たちが新青森駅発着で地元の見所を案内する、恒例の「駅からハイキング」企画が 10 月 12 日に行われました。



今年初めて、駅の北西にある青森市の野木和公園を散策し、秋晴れの風景を楽しみました。

今年の「駅からハイキング」には、県内外の旅行者や青西おもてなし隊の生徒、JR 東日本社員ら 15 人が参加しました。北海道新幹線の高架を眺めながら、駅の北西約 3km に位置する野木和公園まで往復、周遊しました。

参加者からは「天候も良く楽しいコースだった」という感想が聞かれました。

おもてなし隊の山本菜々さん(2 年)は「天候に恵まれ、八甲田山や岩木山を見られてよかった。新たな気づきや学びがありました。参加者の方に青森の魅力が伝わって



いれば」、佐藤穂果さん(同)は「野木和公園に行くこともハイキングすることもほとんどなかったので、自分も満喫できました」、宮本悠嗣さん(1 年)は「新たに青森の秋の風景という魅力に気付くことができました。『自分の知らない青森』がまだまだある」、水谷仁美さん(同)は「参加した方々が楽しんでいる様子を見られて良かった」と感想を語っていました。

新青森駅

鉄道の日になみ「進め！」

青森西高校書道部作品

JR 東日本盛岡支社は、10月14日の「鉄道の日」になみ、各地でイベントを開催しています。新青森駅には10月12日、青森県立青森西高校書道部の作品が展示され、利用者らの視線を集めていました。また、青森

認定こども園（あおいもり園）の園児による鉄道をテーマにした絵画の展示も行われています。いずれも10月31日まで。

「鉄道の日」は1872（明治5）年10月14日、日本初の鉄道が新橋－横浜（現・桜木町）間に開業したことから制定されました。全国各地で例年、さまざまな催しが開かれます。

新青森駅は1階東口エントランスに、青森西高校書道部の作品「進め！」が展示されています。右側に「努力は天命さえも変える」の文字が添えられ、力強さとひたむきさが伝わってきます。



声の演劇、屋外で3小編披露 青森県立美術館 ドラマリーディングクラブ

青森県立美術館ドラマリーディングクラブによる「こどもに贈る屋外公演 Vol.2『詩・恋・歌』」が9月28、29の両日、同美術館で開かれ、来場者が声の演劇、の世界に浸りました。

今回の公演は弘前市の清水司さん（SOUTHERN COMFORT＝サザン・コンフォート）が脚本・構成・演出を担当し、2日間で合わせて12人のクラブ員が出演しました。

引っ越しが決まった男子中学生が、別れを惜む友達の女子中学生から思わせぬ告白を受

ける場面、結婚を控えた女性高校教師が女子生徒に問われ、出会いと決意のきっかけを振り返る会話、そして病床にある余命の限られた女性が、かつての女性担任教師に恋心を伝えた手紙と返信と…。年齢に関係なく誰もが心に抱いているであろう感情に響く3つの小編が、印象的な詩の引用や音楽とともに演じられました。

28日は残暑を思わせる日差しの中、鳥のさ



えずりやスズムシの音を背景に、約30人の来場者がクラブ員の声に聴き入りました。

2009年のクラブ創設時からのメンバーである金恵美子さんは、この日の舞台を終えて「もともと読み聞かせ活動に携わっていて、同じ声による表現に関心を抱いて参加しました。出演はもう10回以上になるでしょうか。私たちが演じる声の世界をめぐり、年齢も経験も異なるお客さんがそれぞれに想像を広げていただければ」と話していました。



青森県立美術館は展示替えのため、2024年11月4日（月）まで長期休館となっています。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日

観覧料 一般 410円（330円）／高校・大学生等 200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※特別展は別料金。展示内容により変更場合があります。

※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。

（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ

〒038-0031 青森市内丸山305

TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365

URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

縄文 ⇄ 芸術
三内丸山遺跡センター ムートマツ 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）

※企画展開催時、展示替等により変更する場合あり。

観覧料 一般 700円（560円）／大学生 400円（320円）／高校生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

※企画展は別料金。

お問合せ

〒038-0021 青森市安田字近野185

TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244

URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）18分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp



FB ページ

Instagram



青森大学
社会連携
センター

